

地形と地名で楽しむジオパーク

コラム



「豊浦の民俗文化シリーズ
第1集 波かむり岩」より



豊浦漁港近くの「波かむり岩」。
「大綿津見大神」の文字の横に
「カシュクシュマ」と読める

北海道では、地名の約8割がアイヌ語に由来していると言われます。洞爺湖有珠山ジオパーク内にもたくさんのアイヌ語地名がありますが、中には地名とともに「風景ができた理由」が物語として残っているものもあります。今回は豊浦漁港の近くにある「波かむり岩」をご紹介します。

波かむり岩は、かつて海辺にあった、2つの岩の成立ちを伝える石碑です。『昔、若い2人の男女が結婚を約束しながらも、親たちが敵同士だったために許されず、大小2つの岩に変えられてしまった。その後、その岩に近づくと大嵐になると恐れられ、人々は毎年お祭りを行い2人の魂を慰めた。』この2つの岩は昭和11年の豊浦漁港の建設で埋め立てられたため、岩があった場所の近くに、この石碑が建てられたそうです。

人々は自然の岩の形に物語を加え、大地の特徴を次世代に伝えようとしてきました。「岩に近づくと嵐が来る」という伝説も、海流や風向きによって危険になる場所に近づかないようするメッセージが込められていたのかもしれない。

多くの地名は、生活に役立つ素材や食材が採れる場所を示すなど、土地の利用方法を反映しています。名づけた当時の人達の生活が垣間見える、歴史的にも大切な財産といえます。

普段あまり意識しない、地形と地名を合せて楽しむのも、ジオパークの楽しみ方のひとつかもしれません。

引用・参考文献「豊浦の民俗文化シリーズ第1集 波かむり岩」昭和59年 豊浦町教育委員会
「ジオパークへ行こう！」平成28年 北海道博物館

洞爺湖有珠山ジオパークの中のアイヌ語地名と、普段見ている地形の関係、また暮らしの中で受け継がれるアイヌ文化について学ぶ講座を開催します。興味のある方はぜひご参加ください。

ジオパーク・パートナー講座 『アイヌ語地名とアイヌの伝承』



豊浦町の海岸では、大昔の火山活動を
示す岩がたくさん見られます。そのひとつ
ひとつに、名前が付けられていたそう。

開催日 平成30年2月18日(日) 10:00~12:00

会場 豊浦町中央公民館(豊浦町船見町95番地)

講師 北海道博物館研究職員 遠藤 志保 さん
豊浦アイヌ協会会長 宇治 義之 さん

その他 ジオパーク・パートナーに登録されていない方も参加できます。
入場無料、予約不要 先着50名にジオパーク絵本
『11万年のうえの一日』をプレゼント!

ジオパークとは、大地の成立ちと、自然、人間とのつながりを楽しく学ぶことができる地域のこと。
国内には「ユネスコ世界ジオパーク(国際認定)」が8地域、「日本ジオパーク(国内認定)」が43地域あります。